

# 飛躍する4企業

## 野火止製作所

常務 川上 博史氏

### 信頼と技術でNo.1企業目指す



我々が目指しているのは、日本で一番「ありがとう」をいただける製造加工業です。「みんなの知恵と勇気と情熱で幸せな社会をつくる」、「『ありがとう。頼りになるね』と言われる信頼度No.1企業を目指す」、「モノづくりNo.1企業を目指し、社会に貢献する」の三つを経営理念としています。

1960年に創立した当時

はオートバイ部品が主力でした。そして、77年にワイヤカット放電加工機を導入し、84年にはレーザー加工を始めました。その後、研磨機、溶接機、ペンダーなども導入していきました。10年からはECサイト「何でも加工・CO M」を展開しています。保有設備は、主力のレーザー加工機5台、ネットワーク数値制御(NC)ペンダー2

### レーザー加工主力に成長へ

台、各種溶接機3台などです。最近の仕事の代表例は、小惑星探査機「はやぶさ」の着陸時に使われたカプセル回収ボックスの製造協力です。内部を完全溶接で仕上げ、微粒子が漏れないようにしました。過去に新幹線のオイルパンを手がけたことがあり、その技術を買われて宇宙航空研究開発機構(JAXA)受託業者から仕事をもらいました。

加えて、多くの商業施設のサイン・ディスプレイをレーザー加工で作っています。レーザー以外では、精密板金、製缶、ワイヤカット、放電加工、機械加工、樹脂加工などを手がけています。強みは、多品種少量・短納期への対応力です。電子メーكلを用いた図面データ受注により、素早く見積もりを出すこともできます。一方弱みは、営業力が弱いことや、初期段階加工の下請け受注が主体なので利益率が低いことなどです。

最近では、はやぶさ回収ボックス製造協力により、企業認知度が高まっています。そしてこれが、新規顧客獲得につながっています。また、省エネ、高付加価値品、高加工精度へのニーズが高まっており、当社にとってチャンスだととらえています。

今後の成長戦略の方向性は、強みをより強く、機会をモノにしながら、弱みをカバーしていくことです。同時に、オンリーワンの特徴を出せる存在価値のある企業に進化したいと思っています。

(新座市)